

ひととき、駅前には足の踏み場もないほど大量に放置されている自転車が、社会問題としてテレビなどで報道されていた。利用者のマナーの悪さが指摘される一方、駐輪場所がないからだという言い分もあった。この問題を解決するため活動を続けているのが、財団法人・自転車駐輪場整備センター。その主な事業内容は、地方公共団体からの依頼を受けての自転車駐輪場の建設や管理、貸与、自転車駐輪場等に関する調査研究などだ。設立されてすでに三十年近い実績があり、建設した自転車駐輪場は約千箇所、収容台数六十四万台に達しているという。

「だいぶ緩和されたとはいえ、放置自転車は依然として多いです。交通安全や都市美観の面からも、地道に取り組んでいかなければと思っています」



ここでも競輪の補助金が使われている

「一番苦労するのは、やはり土地の確保だと思います。駅前など地価の高い場所がほとんどですから。そういう意味からも、JKAさんからの支援は大変有難いと思っています」  
同席した企画課長の山岸誠さんの言葉に、堀内部長も頷き言葉を続けた。「この補助金の交付を受け、三大都市圏(首都・近畿・中部)の鉄道駅周辺に、自転車駐輪場の建設を続けていきます。対象になるのは、主に通勤・通学用の自転車の放置が五百台以上ある箇所です」  
JKAからの支援は、現在まで要請のあった市区町村に対し、約二百八ヶ所、約二十八万台が収容できる自転車駐輪場に使われたという。

## 安全で美しい駅前環境の確保を目指して 「(財)自転車駐輪場整備センター」



自動ゲート、防犯カメラ、照明を完備した安全で明るい分倍河原駅北第2自転車駐輪場

自転車は手軽で無公害の交通手段とされる。地球温暖化が問題視されて環境に対する人々の意識が変化化する中、今後も利用者はますます増えていくに違いない。

「そうした社会的ニーズに対応していくために、私たちの仕事は不可欠だと思っています。もちろん、管理人には利用者に対するサービス業だという認識を常に持たせ、徹底した教



整然と自転車が並ぶ場内

育は怠っていません。できるだけ自転車駐輪場には管理人を常駐させるようにして、誰でもいつでも安心して利用できるように努めています。利用者から「管理人さんの朝の行つてらっしゃい」という挨拶で元気が出て、夜のお帰りの挨拶で疲れが取れる」という感謝の手紙も届いています」

堀内部長はそんなエピソードも紹介してくれた。人間同士の優しい触れ合いがあれば、人というのはマナーを守りやすくなる。同センターの自転車駐輪場を利用すると、ささやかだがアジアの人々を支援することにもなる。日本で引き取り手のない自転車を、アジアの教育機関で学ぶ生徒などにプレゼントしているからだ。今後はこの輪をアフリカにも広げていきたいとのことだった。

(畑岡久美)

同センターの企画部長、堀内隆吉さんは淀みない口調で説明してくれた。自転車駐輪場といってもその種類は多彩らしい。

「例えば立体自走式。複合施設として地下一階から地上三階までは自転車駐輪場、地上四階は市の施設になっているものや、高架下や他の施設の上空を利用したものもあります。平面平屋式のなかには、城下町の景観に配慮して、屋根を瓦葺き外壁腰壁に石垣を取り入れたりしています。他にも平面シエルター式、平面無蓋式、地下式などがあります」

利用者の利便性、街の美観の保持を心がけて施設をつくるようにしているという。周囲の自然と調和させるため、地下駐輪場の上部を緑化公園にしたり、プラントホーム側の側面を壁面緑化にしている施設もあるそうだ。

### 競輪マークみつけた

#### 〈(財)富士福祉事業団〉

設立60年の富士福祉事業団では毎年、文京シビックホールでのチャリティクラシックコンサートを開催して多くの聴衆の感動を呼んでいる。

第6回の今年は、人気ヴァイオリニストの川島成道氏を招き、特別編成オーケストラとともに名曲の数々を熱演し好評を博した。

区内の障害者の方を招待するとともに、来場者には福祉への関心を高めてもらうために社会福祉活動の募金も行われ、大きな成果をあげた。

